

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月31日現在

機関番号：33910

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21720238

研究課題名（和文）室町～江戸初期における朝廷・天皇・公家衆の発給文書と政治的動向

研究課題名（英文）A study of the documents issued by the imperial court, the emperor, and aristocrats, and of their political trend during Muromachi and early Edo period

研究代表者

水野 智之 (MIZUNO TOMOYUKI)

中部大学・人文学部・准教授

研究者番号：00468240

研究成果の概要（和文）：

中世後期国家における朝廷・天皇・公家衆の位置や政治的動向を究明した。第一に足利義満～義持期の公武政権論の再検討から近年の室町殿論に対する課題を示した。第二に九条・二条・一条家の九条流摂関家と、近衛・鷹司家の近衛流摂関家の動向を分析し、両者は時に対立状況にあったこと、天皇は各流の摂関家を通じて各武家勢力と関与していたことを解明した。第三に長野氏関係の記録にみえる中世文書の写を紹介した。

研究成果の概要（英文）：

This study investigated the political position and trend of the imperial court, the emperor, and aristocrats, in the latter medieval age of Japan. First, I made it clear the questions of the theory about *Muromachi-dono* 室町殿; the paterfamilias of the Ashikaga family in recent years by the reexamination of the imperial court and shogunate in *Ashikaga Yoshimitsu* 足利義満 and *Ashikaga Yoshimochi* 足利義持 periods. Secondly, I analyzed the political trend of *Kujyo* 九条 regency extended family; *Kujyo-ke* 九条家, *Nijyo-ke* 二条家, *Ichijyo-ke* 一条家, and *Konoe* 近衛 regency extended family; *Konoe-ke* 近衛家, *Takatukasa-ke* 鷹司家, and solved that two regency extended families were sometimes opposed each other, that the emperor were concerned with each samurai's group through the each regency extended family. Thirdly, I published the medieval documents (the duplicate of the documents written again) in the historical materials of *Nagano-shi* 長野氏 (resident local warriors).

交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費      | 合 計       |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2009年度 | 1,000,000 | 300,000   | 1,300,000 |
| 2010年度 | 900,000   | 270,000   | 1,170,000 |
| 2011年度 | 900,000   | 270,000   | 1,170,000 |
| 2012年度 | 800,000   | 240,000   | 1,040,000 |
| 総 計    | 3,600,000 | 1,080,000 | 4,680,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：公武関係、朝廷、天皇、摂関家、九条流摂関家、近衛流摂関家、本願寺、王権

## 1. 研究開始当初の背景

中世後期国家における朝廷および天皇、公家衆の位置は評価が定まっていなかった。その状況を克服するために、2005年に刊行した拙著『室町時代公武関係の研究』(吉川弘文館)では、幕府＝国家といった一面的な理解の克服を目指し、朝廷と幕府が連関した国家を形成していたこと、あわせて朝廷や天皇、公家勢力の政治的動向やその権力のあり様の一端を解明した。

しかし、室町時代の朝廷や天皇、公家衆・門跡衆といった公家勢力、その背景としての公家社会の本格的な政治史研究は着手され始めた段階と言ってもよく、ほとんど研究がなされていない状況にあった。

## 2. 研究の目的

室町～江戸初期の朝廷および天皇、公家衆の発給文書を収集・整理することから、その政治的動向を解明し、朝廷および天皇・公家勢力を組み込んだ当該期の国家像を構築し、その立場から国家公権の内実や影響力を究明することである。

## 3. 研究の方法

### (1) 史料の収集・調査

各史料所蔵機関において様々な刊本や未活字史料の収集・調査を行い、文書を一点ずつ記録に取り、集積した情報をデータベース化して整理する。その際にはアルバイトを募り、入力を依頼する。

### (2) 朝廷、天皇、公家衆、中世政治史に関する研究書、論文の収集

様々な研究書、論文を収集し、朝廷、天皇、公家衆の状況を探る。また当該期の幕府・大名らの政治的動向も並行して確認していく。

### (3) 研究成果の公表

室町～江戸初期の古記録・文書から、朝廷・天皇・公家衆の記載のある史料を収集し、朝廷・天皇・公家衆の国家支配における位置や関与のあり様、政治的動向などを考察して論文を執筆し、公表する。

## 4. 研究成果

### (1) 研究の主な成果

朝廷・天皇・公家衆の発給文書、そして朝廷・天皇・公家衆、中世政治史に関する研究書、論文を多数収集することができた。その上で進めた研究について主な成果を三つ挙げる。第一に応永期の公武政権について、義満・義持による支配の限界面に配慮した研究が増えており、これは天皇自身が保持する権限の解明と表裏をなしていることを説いたことである。加えて、天皇は「礼」という身分秩序を手段の一つとして存続し、法や国家権力に関与する可能性を常に再生産していたため、天皇の権威・権力は注意して検討する必要があること、そして当該期の王権論はこの点を分析する必要があることと論じたことである。

第二に朝廷・天皇・公家衆の政治的動向について、関白をめぐる九条家と近衛家との対立は室町期から戦国期にも継続し、天文初期に足利義晴・近衛植家・細川晴元⇄足利義維・九条植通・三好伊賀守・本願寺という対抗関係を明らかにしたことである。また天皇が武家相互の争いを調停する前提には、摂関家をはじめとする公家勢力がその争いに関与していた前提を指摘した。織田期においても九条流摂関家(特に二条家)と近衛流摂関家(特に近衛家)の対抗は確認され、いずれの公家勢力も自身が政権の中枢に深く関わるような政治状況の創出を試みて

いたことを明らかにした。豊臣期では秀吉の関白就任の際、摂関家の嫡流相論が起こり、九条家と近衛家が争った。秀吉は近衛家の猶子になっており、その立場では九条植通(行空)の嫡流意識を十分に抑えられなかった。そのため秀吉は藤原氏から豊臣氏に改姓し、摂関家を越えうる立場に立って諸家を統制しようとしていたことを説いた。

第三に『伊勢長野氏家譜』など長野氏関係の記録に収載されている中世文書の写を紹介した。ここには従来知られていない文書が含まれており、学術的にも貴重である。

## (2) 得られた成果の国内外における位置とインパクト

室町時代の朝廷や天皇、公家衆・門跡衆といった公家勢力、その背景としての公家社会の本格的な政治史研究は研究の遅れが著しい。そのような状況に対して、本研究は政治史研究を推し進めるもので、室町～豊臣期の国家論や公武関係論、朝廷や公家社会の研究を大いに発展させたものである。朝廷、天皇、公家衆の発給文書の収集・整理、その政治的動向などの究明を通じて、当該期の日本国の国家を浮かび上がらせる大きな役割を果たし、この領域の基盤を構築する位置にあると考える。

国外の研究動向として、本研究と関わる分野では、各国の王の存在形態や宗教的権威、また公家(文官)と武家(武官)の国家体制のあり様などが検討されつつある。本研究は日本中世後期におけるあり様を示した貴重な成果と言え、各国と日本のあり様を比較・考察する上で重要な情報、知見を示していると思われる。また、本研究では王権論について考察を加えており、日本と諸外国との国家制度の相違や日本の特色を考える上での分析方法及び留意点を示すことができたと考え

る。

## (3) 今後の展望

朝廷・天皇・公家衆の政治的動向について、摂関家の分析から基本的なあり様を解明したので、今後はさらに多くの公家衆の分析を加えて、より緻密な動向を解明するつもりである。武家をも含めた公家社会の様々な人間関係や身分秩序、朝廷らと対立する武家勢力への関与のあり方などはさらに究明の余地がある。また朝廷・天皇・公家衆の発給文書についてはまだ収集・整理が十分でないので、今後もさらに研究を継続するつもりである。

これらのことを通じて、朝廷・天皇・公家衆の活動の実態を明らかにし、その点から「日本国」という国家が維持された理由と、併せて天皇が経済的に困窮したとされる戦国期にも滅亡せず、存続しえた理由をより一層明確にしたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- ①水野智之、伊勢長野氏家譜・伊勢長野九族略系にみる中世文書、ふびと、査読有、64、2013、pp. 63-75
- ②水野智之、織豊期の摂関家と武家、戦国・織豊期の西国社会、日本史料研究会、査読無、2012、pp. 669-699
- ③水野智之、応永期の公武政権と「王権」、『歴史の理論と教育、査読無、137、2012、pp. 3-15
- ④水野智之、足利義晴～義昭期における摂関家・本願寺と将軍・大名、織豊期研究、査読有、12、2011、pp. 1-20
- ⑤水野智之、室町・戦国期の本願寺と公家勢力、戦国期の真宗と一向一揆、吉川弘文館、査読無、2010、PP. 46-78

〔学会発表〕（計 2 件）

- ①水野智之、応永期の公武政権と「王権」、名古屋歴史科学研究会、2011 年 5 月 28 日、名古屋大学
- ②水野智之、戦国期の公家勢力と本願寺の動向、戦国史研究会、2009 年 5 月 9 日、駒澤大学

〔図書〕（計 2 件）

- ①天野忠幸、他、日本史史料研究会、戦国・織豊期の西国社会、2012、1154、(669-699)
- ②新行紀一、他、吉川弘文館、戦国期の真宗と一向一揆、2010、292、(46-78)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

水野 智之 (MIZUNO TOMOYUKI)  
中部大学・人文学部・准教授  
研究者番号：00468240

### (2) 研究協力者

水谷 みどり (MIZUTANI MIDORI)  
愛知県職員(嘱託)  
小久保 嘉紀 (KOKUBO YOSHINORI)  
名古屋大学大学院・文学研究科・院生  
池田 丈明 (IKEDA TAKEAKI)  
名古屋大学大学院・文学研究科・院生  
上嶋 康裕 (UESHIMA YASUHIRO)  
名古屋大学大学院・文学研究科・院生  
斎藤 丈哲 (SAITO TAKENORI)  
高千穂大学・人間科学部・学生  
後藤 健一郎 (GOTO KENICHIRO)  
高千穂大学・商学部・学生  
川部 優里 (KAWABE YURI)  
中部大学・人文学部・学生  
長野 知耶 (NAGANO CHIKA)  
中部大学・人文学部・学生  
服部 俊彦 (HATTORI TISHIHIKO)  
中部大学・人文学部・学生  
渡邊 康行 (WATANABE YASUYUKI)  
中部大学・人文学部・学生